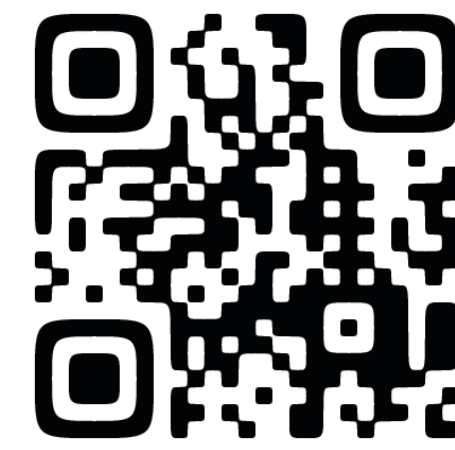


CDC発達マイルストーン日本語版の開発に向けた取り組み

加藤 正晴^{1†}, 土居 裕和², 孟 憲巍³, 村上 太郎⁴, 大谷 多加志⁵, 上原 泉⁶, 箕浦 有希久⁷,
久保田 恵巳⁸, 西川 藍⁹, 西山 剛司¹⁰



BOLD紹介サイト

(1) 同志社大学 (2) 長岡技術科学大学 (3) 名古屋大学 (4) 常葉大学 (5) 京都光華女子大学 (6) お茶の水女子大学 (7) 佛教大学
(8) くぼたこどもクリニック (9) 洛和福祉会 (10) SCERTS研究会 (†) 子どもと育ちのコホート研究・実践協会

背景と目的

発達障害と診断される子どもの数は世界的に増加しており、我が国も例外ではない。学齢期での支援ニーズは著しく増加しており、有効な対策の一つが発達障害の早期発見・早期介入である。これは当事者のその後のQOL改善だけでなく、社会コストの大幅な削減にもつながる。

そこで我々は0-4歳児を対象としたオンライン発達評価ツールの開発を行う。発達障害者支援法で期待されている1歳半、3歳児健診での早期発見は、現実的には容易ではなく、その補助ツールとなる母子健康手帳では子どもの発達に関する項目が少ない。本ツールはこうした不足を補うもので、専門的な発達評価項目を組み込んだ無料のオンラインアンケート形式により、保護者が日常生活の中で無理なく継続的に子どもの発達を記録できるようにする。さらに、蓄積された生育歴データを保護者・医師・支援者間で共有可能とすることで、早期発見から適切な時期での早期介入へとスムーズに繋げる体制を構築する。これにより、従来の「その場限りの観察」による判断から、「継続的な発達記録」に基づく包括的な支援体制への転換を目指す。本発表は核となるCDC発達マイルストーンの日本語版開発について報告する。

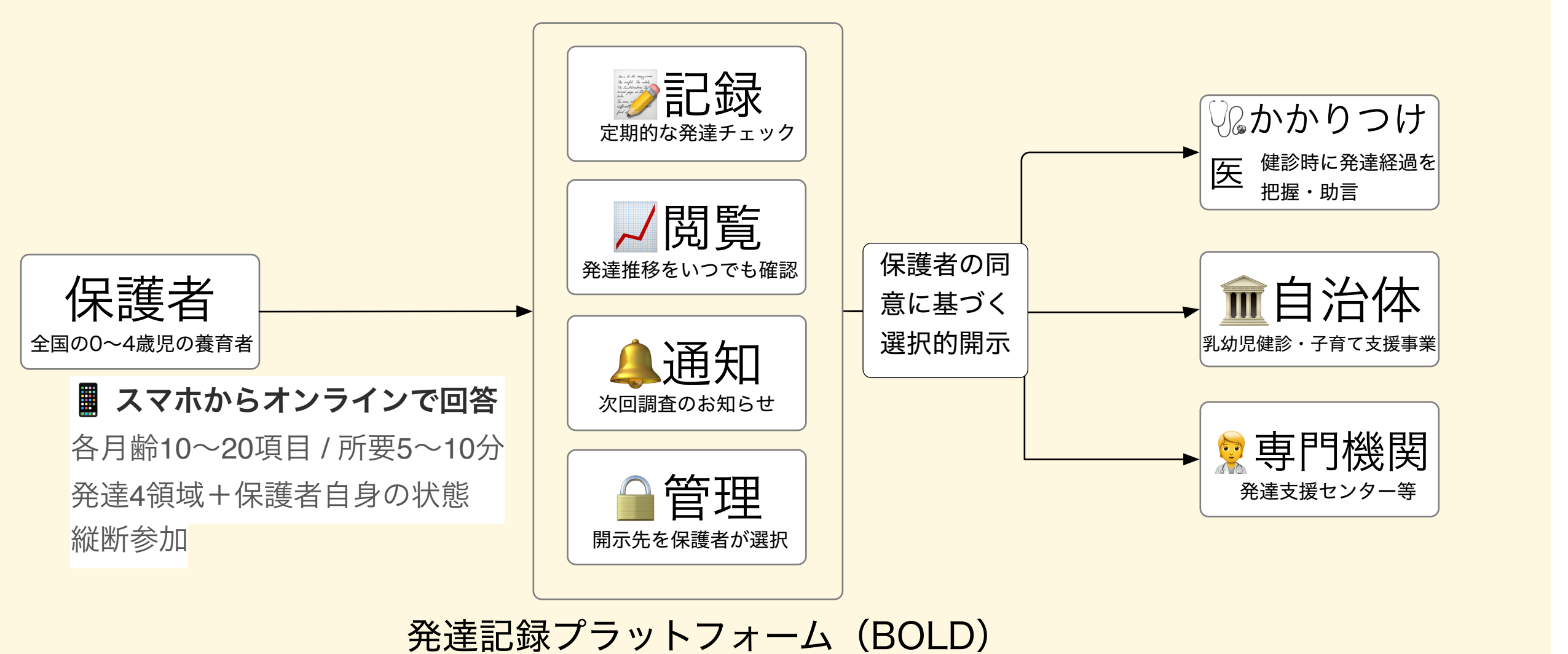
方法

発達科学、小児科学、情報学などの専門家による作業部会を2025年10月に設置し、CDC発達マイルストーンの翻訳と文化的適応を進めた。翻訳にあたっては、既存の母子健康手帳との補完性を考慮しつつ、保護者にとってわかりやすい表現とした。

調査は全国の0~4歳児の保護者を対象とし、まず生後2か月から36か月までの10時点(2, 4, 6, 9, 12, 15, 18, 24, 30, 36か月)で実施する。スマートフォンによるオンライン調査とし、縦断参加を基本としつつ単回参加も可能とする。各月齢200~300名のデータ収集を目標とする。発達評価に加え、保護者自身の精神的疲労度や相談リソースの有無についても収集し、包括的な支援につなげる。

システム面では、Webベースのプラットフォームを構築し、保護者がスマートフォンから定期的に発達の経過を見返すことができるようにする。現在、100名規模のパイロット調査によりシステムの有用性評価を進めている。

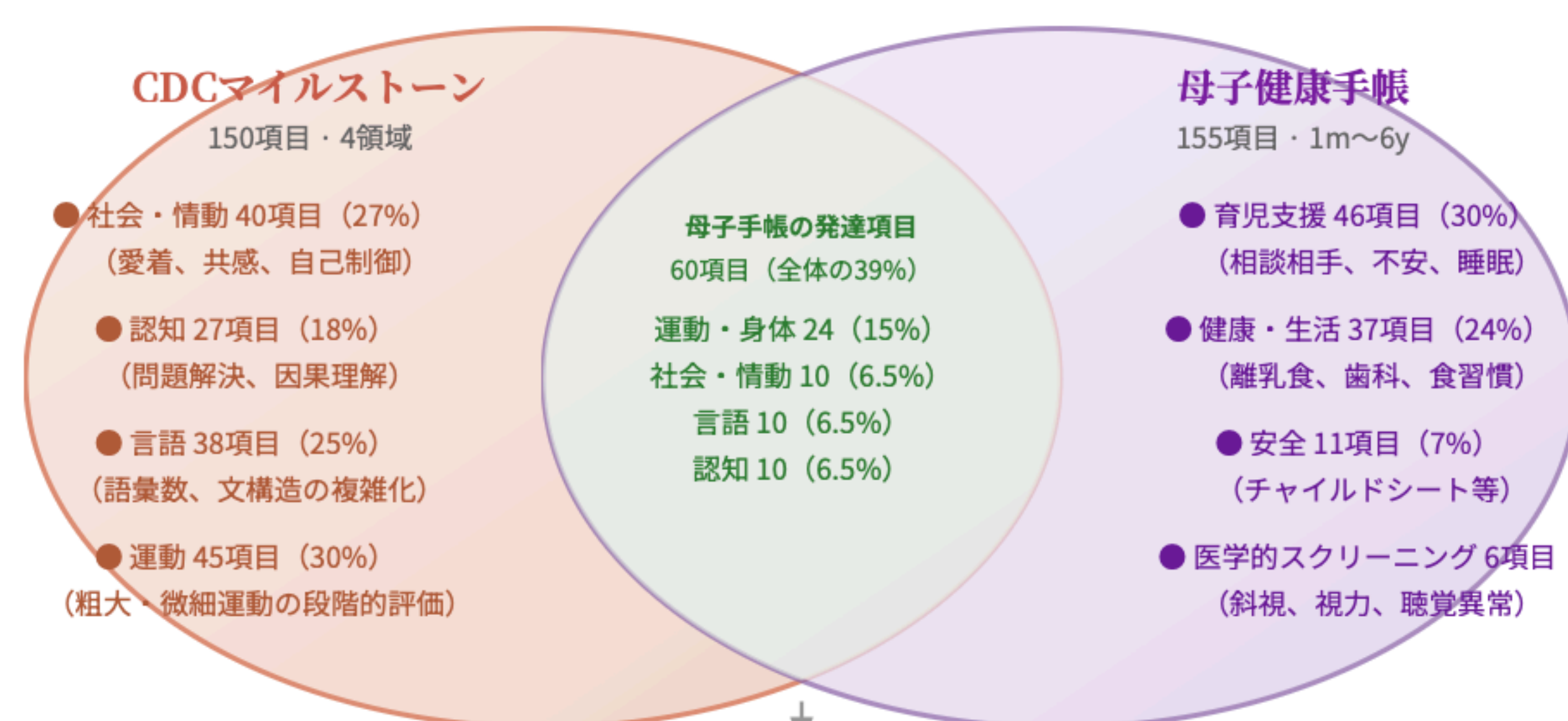
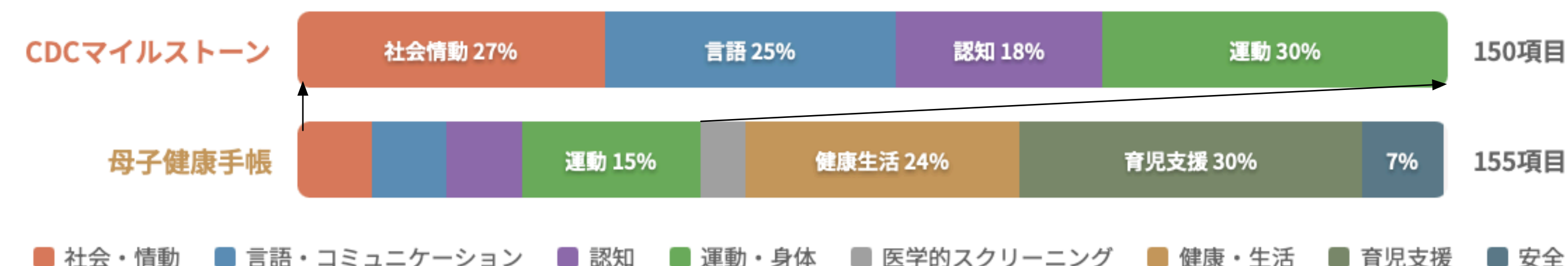
システム概念図：データの流れと利用者



CDC発達マイルストーン

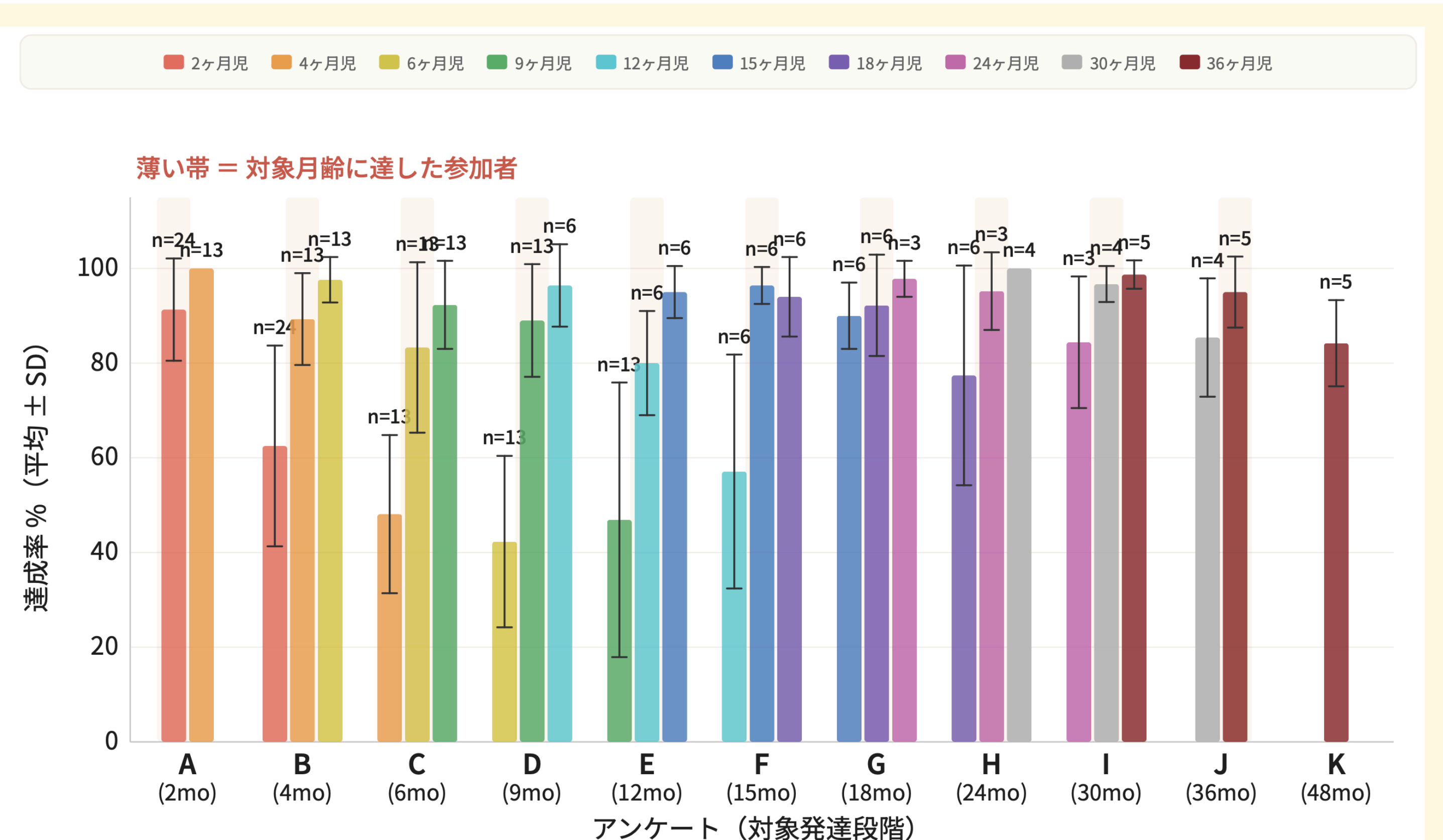
米国疾病予防管理センター(CDC)が開発した発達マイルストーンは、各月齢における子どもの発達を、社会・情動、言語・コミュニケーション、認知、運動・身体の4領域で評価するツールである。この発達マイルストーンは各月齢の75%の子どもの達成する項目を提示することで、保護者が子どもの発達を理解し、必要に応じて専門家に相談する入り口となることを目指しており、スペイン語、中国語など13言語に展開され国際的にも広く認知・利用されている。

母子健康手帳との補完性



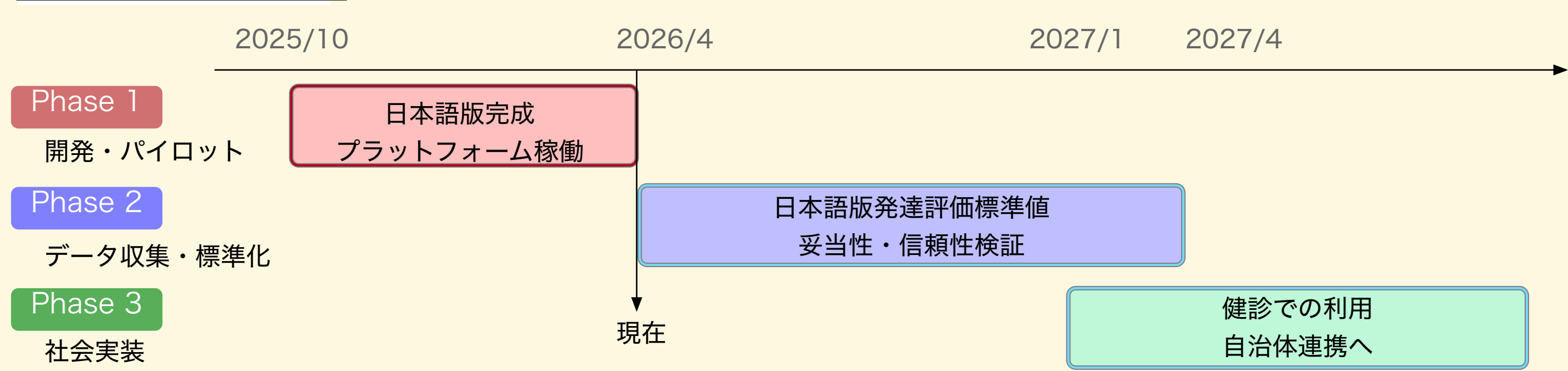
CDCマイルストーンは0-4歳までに150の項目を「社会情動」「言語・コミュニケーション」「認知」「運動・身体」の4領域をバランスよくカバーしている。一方、母子健康手帳は0から6歳の155項目中、発達関連は60項目(39%)にとどまり、うち運動・身体が24項目と最多。CDCマイルストーンが母子手帳よりも子どもの発達に手厚くカバーしており、手薄な社会・情動と認知の領域を補完できることがわかる。

途中経過



参加者月齢別の達成率 (平均 ± SD) : 各月齢用アンケート (A~K) に対し、異なる月齢の参加者が回答した際の達成率を示す。薄い帯は対象月齢に達した参加者のバー。対象月齢で達成率が高くなるパターンが発達の妥当性を示唆する。

ロードマップ



References

Kato, M., Doi, H., Meng, X., Murakami, T., Kajikawa, S., Otani, T., & Itakura, S. (2021). Baby's Online Live Database: An Open Platform for Developmental Science. *Frontiers in Psychology*, 12. doi:10.3389/fpsyg.2021.729302
加藤正晴, 土居裕和, 孟憲巍, 村上太郎, 梶川祥世, 大谷多加志, 上原泉, 箕浦有希久. (2024). Baby's Online Live Database によるオンライン縦断研究. *心理学評論*, 67(1), 95-108.
謝辞 この取り組みは公益財団法人森村豊明会より助成をいただき実施しております。

※ BOLDは現在、非営利型の一般社団法人子どもと育ちのコホート研究・実践協会により運営されています。

